

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

令和6年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 佐藤 明	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	https://aizuvaichi.or.jp/
市所管課	文化スポーツ部 文化政策課	電子メール	info@aizuvaichi.or.jp
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年5月8日 (平成22年12月22日 公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,800 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名①		會津八一記念館管理運営事業						
事業概要	<p>(概要) 市の財産である會津八一の遺墨や八一と交友関係にあった文化人・作家の作品を保存・管理し、展覧会を通じて県民をはじめとする全国の愛好家に業績を普及する。</p>							
	<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 名誉市民會津八一の内外に誇るべき書作品を紹介することは、市の文化的財産の豊富なことを認識してもらう手段。文化事業への理解と関心を高める。</p>							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
公益事業	受託事業	支出額	千円	予算	40,468	41,087	43,676	48,893
				決算	40,468	41,928	43,761	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館者数	R6	人	7,000	-	-			
	R5	人	6,000	7,262	特別展の4000人超は9年ぶりの盛況。企画展も各1000人と安定した来館者を確保できた。			
	R4	人	4,500	5,882	3つの企画展ではそれぞれ約1000人、特別展が3000人ほどとコンスタントな入館者数となった。			
	R3	人	4,000	5,586	特別展「會津八一と茶の湯の世界」が3000人を超える盛況で、行動制限がかかる中では健闘した。			
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館料	R6	千円	2,200	-	-			
	R5	千円	2,000	2,455	特別展の盛況大きく実績を引き上げた。			
	R4	千円	1,500	1,973	3つの企画展ではそれぞれ約1000人、特別展が3000人ほどとコンスタントな入館者数となった。			
	R3	千円	1,500	1,817	茶の湯の関係者が多く来館してくれた。			
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R6							
	R5							
	R4							
	R3							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		文化的財産である作品等の保管および管理が適切に行われた。						

2. 主要事業

事業名②		展示事業						
事業概要	<p>(概要) 新潟を代表する文人會津八一の作品と業績（短歌、書、美術史、教育）を広く知ってもらうため、八一の遺墨を中心に展示。年一回の特別展ではゆかりの人物や地域に焦点を当て、また3回の企画展では所蔵品を中心に作品を展示。</p>							
	<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 孤高の生き方を貫き、優れた作品を残した八一の業績を知ること、新潟の文化的土壌の豊かさを再認識し、そのことを誇りとすることができる。</p>							
事業区分	収支区分	単位	予算・決算	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	4,996	5,272	5,635	5,836
				決算	6,621	5,962	5,772	-
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
特別展 (入館者数)	R6	人	3,000	-	-			
	R5	人	3,000	4,154	全国で開催された棟方志功展の中でも八一との交流に絞った展示が高い評価を得て、多くの来館者を獲得できた。			
	R4	人	3,000	2,965	飛鳥園から借用した高精細なデジタル写真は1点1点サイズが大きかったため展示数が限られる制約もあった。			
	R3	人	3,000	3,041	裏千家淡交会新潟支部の全面的な支援もあり、2016年以降の入館者3000人を超えた。			
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
企画展 (入館者数)	R6	人	3,000	-	-			
	R5	人	3,000	3,108	猛暑もあったが、それぞれ1000人程度コンスタントに来館があった。			
	R4	人	5,000	2,917	夏から冬にかけてコロナ第7波、第8波が相次いで襲来したが、それぞれ1000人ほどが来館。			
	R3	人	5,000	2,545	コロナ感染防止対策で9月に16日間休館を余儀なくされ、県外からの来館者は大幅に減少した。			
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
	R4							
	R3							
	R2							
	R1							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		<p>所管課として広報等市民への周知を行った。 特別展、企画展ともに計画を上回る来場者数となり、會津八一の業績や作品を広く伝えることができた。</p>						

2. 主要事業

事業名③		文芸講演会事業						
事業概要	(概要) 4回の展示に関連してその分野の研究者・専門家を招き、テーマに関連した内容を語ってもらう。そのことにより県民市民が教養を高める一助とする。							
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業への関心を高め、文化的土壌を育むとともに文化・歴史に対する市民の誇りを高める。専門家の話を聞くことで市民の文化的教養が深まり、市の文化的厚み（文化度）が高まる要因となる。							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	1,320	1,320	1,320	1,320
				決算	471	1,172	1,207	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
開催数	R6	件	6	-	-			
	R5	件	9	9	9	講演会を1回トークイベントで代替、文芸講演会は4回。ほかに館長講座を4回開催した。		
	R4	件	9	9	9	企画展、特別展ごとの講演会5回のほか、館長自ら講師を務める館長講座を4回開催した。		
	R3	件	6	9	9	企画展ごとの講演会のほか、館長自ら講師を務める6回連続の館長講座を開催した。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
聴講者数	R6	人	550	-	-			
	R5	人	800	822	822	各回とも4年度より参加者が少なかった。特に夏の講演会は猛暑のため参加者が少なかった。逆に館長の講演会は増加した。		
	R4	人	600	835	835	館長講座はコロナ感性防止のため120席に絞ったこともあり、補助いすをだすこともあり盛況だった。		
	R3	人	600	801	801	上記の通り、6回の館長講座が好評だったことに加え、企画展講演会の講師の集客力も高く多くの聴講者を集めることができた。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R6							
	R5							
	R4							
	R3							

所管課の関わり及び主要事業にかかる評価	所管課として広報等で市民の周知を行った。多くの方の関心を集めた講演会を企画し、市民の文化的教養の向上や進化につなげることができた。
---------------------	---

2. 主要事業

事業名④		販売事業						
事業概要		<p>(概要) 特別展図録、自主開発した商品、関連書籍、往復書簡集（會津八一のやりとりした書簡の活字起こし）の制作販売。</p> <p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 所蔵作品・資料を、展示とは別の形態（書籍、図録、商品デザイン）で活用することは、文化的財産への関心を別の角度（購入・読書）から高めることにつながり、市の文化事業理解へとつながる。</p>						
		事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和3年度	令和4年度
公益事業	自主事業	収入額	千円	予算	3,000	3,000	3,000	3,000
				決算	1,750	2,175	1,963	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
販売事業		R6	千円	2,000	-	-		
		R5	千円	2,000	1,436	来館者は増加したものの、特別展図録以外には書籍等を発行しなかった。計画には及ばず、令和4年度実績もわずかに届かなかった。		
		R4	千円	2,000	1,466	来館者は増加したものの、新刊もなく伸び悩んだ。		
		R3	千円	2,000	1,114	會津八一生誕140年を記念して発刊した「名品50選 獨往の書」は好評だったが、来館者の伸び悩みで今一步。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
鑑定事業		R6	千円	1,000	-	-		
		R5	千円	1,000	527	応募数は24点から29点に増加したが、贋作が多く、鑑定料をいただく件数が18点から9点に激減した。		
		R4	千円	1,000	709	出品数は頭打ちだが、認定率が昨年を上回った		
		R3	千円	1,000	636	依頼数が少ないうえに、鑑定会の認定率が低く、鑑定料、認定料ともに低迷した。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
		R6						
		R5						
		R4						
		R3						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		市民を初めとした多くの方々の文化的財産への関心向上に貢献した。						

2. 主要事業

事業名⑤		普及活動事業							
事業概要		<p>(概要) 會津八一の業績のうち短歌について、そのイメージを写真で表現することを呼びかける。そのことによって写真分野で活動する人たちにも八一の世界をしってもらい、もって八一の業績の広まりと認知度アップを図る。また職員が館外で講演することにより、来館したことのない人からも會津八一に関心を持ってもらい、業績を認知してもらう。</p> <p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業の厚み、多彩さを印象付ける。また専門学芸員を擁すること、その知識経験を館外で発揮するというのも、市の文化的土壌の豊かさを認知してもらう契機となる。</p>							
		事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和3年度	令和4年度	令和5年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	2,650	2,650	3,000	3,000	
				決算	1,867	3,022	2,562	-	
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数		R6	点	190	-	-			
		R5	点	190	137	応募点数は減ったが、対象とする歌が多様化し、応募作品の質が高くなっていると浅井委員長も評価している。			
		R4	点	180	184	16回目を迎え、写真愛好家には定着していると浅井慎平委員長から評価いただいた。			
		R3	点	170	175	写真家の浅井慎平さんが審査員であり、15回続いたことで定着。撮影技術の向上していると評価された。			
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
館長・学芸員の出前講演会、講座回数		R6	回	8	-	-			
		R5	回	7	7	出前授業は特定の団体、学校だが、展覧会ごとに館長、学芸員による作品解説会を開催し、八一関連の碑を訪ねる「いしぶみ散歩」も開催している。			
		R4	回	8	6	要請を恒例化している団体もある。			
		R3	回	7	6	コロナの感染拡大防止のため要請自粛もあったが、高齢者や小中学校、高校書道コースで実施できた。			
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
		R6							
		R5							
		R4							
		R3							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		専門学芸員の知識経験を活用し、會津八一の認知度向上に取り組んだ。							

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

令和6年7月1日 現在 (単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
役員数	11	11	11	11
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員〇B				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	11	11	11	11
市兼任	3	3	3	3
市職員〇B				
他団体兼任	8	8	8	8
その他				
職員数	3	3	3	3
常勤	2	3	3	3
市派遣				
市職員〇B				
プロパー職員	2	3	3	3
他団体からの派遣				
非常勤	1	0	0	0
市兼任				
市職員〇B				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	1			
見直し等の取組み				

(2) 職員の状況 (市派遣職員を除く。)

令和6年7月1日 現在 (単位：人)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
職員の状況	管理職				
	一般職	3	3	3	3
	合計	3	3	3	3
年齢構成	20代以下				
	30代				
	40代	2	3	3	3
	50代				
	60代以上	1			
	合計	3	3	3	3

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度(予算)
報酬・給与等	19,089	19,526	20,692	20,852
内 市職員分	0	0	0	0
役員	5,400	5,400	5,502	5,527
常勤				
内 市職員分				
非常勤	5,400	5,400	5,502	5,527
内 市職員分				
職員	13,689	14,126	15,190	15,325
常勤	10,990	14,126	15,190	15,325
内 市職員分				
非常勤	2,699			
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	5,495	4,709	5,063	5,108
見直し等の取り組み				

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系	有	予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他〔 〕		その他〔 〕

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般正味財産増減の部	経常収益	45,629	47,263	48,611
	基本財産運用益	3,184	3,210	3,183
	特定資産運用益			
	受取会費			
	事業収益	39,720	41,371	42,824
	自主事業収益	2,931	3,255	3,041
	受託事業収益	36,789	38,116	39,783
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	2,725	2,682	2,604
	経常費用	45,466	50,151	47,404
	事業費	44,784	48,970	46,561
	公益目的事業費	37,818	41,066	38,858
	収益目的事業費	1,992	2,399	2,035
	(自主事業費)			
	(受託事業費)			
	法人会計	4,974	5,505	5,668
	管理費	682	1,181	843
	評価損益等調整前当期経常増減額	163	▲ 2,888	1,207
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	163	▲ 2,888	1,207	
経常外収益				
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	93	▲ 2,958	1,137	
一般正味財産期首残高	36,229	36,321	33,362	
一般正味財産期末残高	36,322	33,363	34,499	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金			
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定資産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724	
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高		238,046	235,087	236,223

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	19,965	23,064	22,996
役員分	5,937	5,794	5,794
職員分	14,028	17,270	17,202

(2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
資産の部	資産の部合計	256,938	253,521	257,165
	流動資産	15,101	11,906	13,276
	現金預金	3,442	1,101	2,937
	未収金			
	有価証券			
	その他流動資産	11,659	10,805	10,339
	固定資産	241,837	241,615	243,889
	基本財産	200,402	200,255	200,108
	特定資産	32,894	31,895	33,996
	その他固定資産	8,541	9,465	9,785
	有形固定資産	7,339	7,703	7,703
	無形固定資産	1,202	1,762	2,081
その他投資等				
負債の部	負債の部合計	18,893	18,434	20,941
	流動負債	4,594	2,732	3,138
	短期借入金			
	その他流動負債	4,594	2,732	3,138
	固定負債	14,299	15,702	17,803
	長期借入金			
その他固定負債	14,299	15,702	17,803	
正味財産の部	正味財産の部合計	238,045	235,087	236,224
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	36,321	33,363	34,500
	代替基金			
その他一般正味財産	36,321	33,363	34,500	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		256,938	253,521	257,165

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位:千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市財政支出等の合計	40,548	41,008	43,841
補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	40,468	40,928	43,761
内 随意契約額※	40,468	40,928	43,761
指定管理料(公募)			
指定管理料(非公募)	40,468	40,928	43,761
業務委託(随意契約)			
業務委託(その他)			
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

(市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

内容はほぼ100%事業委託料(指定管理料)で、年4回の展示費用や施設管理費、人件費など。目的は新潟市名誉市民會津八一の業績の顕彰と普及活動推進、そしてその活動拠点である記念館施設の維持・管理のため。

(4) 遊休財産の状況

(単位:千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
純資産	238,045	235,087	236,224
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
拠出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	238,045	235,087	236,224

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

（1）財務の健全性

指標		令和3年度	令和4年度	令和5年度
経常損益		163 千円	▲ 2,888 千円	1,207 千円
自己資本比率	純資産	92.6 %	92.7 %	91.9 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	328.7 %	435.8 %	423.1 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	95.8 %	96.3 %	96.0 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産	39,645 千円	36,687 千円	37,824 千円
	－資本金（基本金）			
公益目的事業比率	公益目的事業費	93.4 %	92.0 %	93.1 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.16	0.17	0.16
	遊休財産額			
資金運用	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。		○
（基本財産としての 有価証券の保有）		② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。		○
		③ 資金運用に関する情報収集に努めている。		○
		④ 元本割れのリスクはない。		○

（2）団体の自立性

指標		令和3年度	令和4年度	令和5年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	88.9 %	86.8 %	90.2 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

（3）経営の効率性

指標		令和3年度	令和4年度	令和5年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	13,240 千円	13,790 千円	14,275 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	54 千円	▲ 963 千円	402 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	1.5 %	2.4 %	1.8 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	227 千円	394 千円	281 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	43.8 %	48.8 %	47.3 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	29.7 %	25.1 %	25.2 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
● 有	計画名称 { 會津八一没後70年に向けて/存在意義を広め、存在価値を高める—生活様式変化の中で } 計画期間 令和2年度～令和6年度 概要・数値目標 新型コロナウイルスの影響が鎮静化し、令和6年元日に発生した能登半島地震の影響も最小限に収まったこともあり、令和5年度の入館者数はコロナ禍前の年間7000人台を回復した。特に秋の特別展「棟方志功と會津八一—知性と感性—」は平成26年度以来となる4000人超の入りとなった。そのほかの企画展もそれぞれ1000人程度と、コンスタントな入館状況となっている。令和6年度は春の「會津八一と秋艸堂に集う文化人たち」が少し苦戦したが、野中館長がプロデュースした夏の企画展「鐵齋・八一の文人世界」は猛暑にもかかわらず、8月末で900人を超え、涼しくなる9月23日の会期末までには1300人前後の入館を見込んでいる。今年の特別展は「會津八一と大和路 入江泰吉・杉本健吉とともに」をテーマに、奈良を愛し、ライフワークとして取り上げた會津と写真家の入江泰吉、画家の杉本健吉3人の交流に焦点を当てて奈良の風物を対象とした展示を予定している。昨年の棟方志功には及ばないかもしれないが、期待している。冬の企画展「八一を知る 八一がわかる 書的美編」は初心者向けのシリーズ第4弾。最も人気の高い書がテーマであり、冬場でもそれなりの来館は期待できる。會津八一を顕彰する施設として、知名度を上げる活動を地道にかつ不断に継続し、會津八一が新潟市民にとって、身近で誰もが知る、誇らしい名誉市民であることを認識してもらおう。 <入館者>入館者は令和2年度3500人、3年度5500人、4年度が5900人ほど。令和5年度は上述の通り、3回の企画展がそれぞれ1000人、特別展「棟方志功と會津八一」が4000人強の7200人となり、中期構想の目標を3年前倒しで達成した。野中館長は作品鑑賞会を開催したり、連続講座を開講し、固定ファンづくりに大きく貢献した。令和6年度は野中館長が富岡鐵齋展を企画し、館長講座に代わる「書の体験講座」(絵手紙、年賀状、篆刻)も外部団体の協力を得てスタートした。若い世代への浸透を図る「高校生拓本大会」と合わせて既存のファンとは別の新しいファン層の開拓に努めている。また、小中学生へアプローチするため、夏休み前には市内の校長会長を訪ね、出前授業や巡見、記念館訪問などを年間の行事計画に取り入れるよう依頼し、校長会で利用促進を取り上げてもらった。 <図録と在庫>令和5年度特別展「棟方志功と會津八一」では読者からの希望も反映し、A4判からB5判にサイズ変更し、持ち運びできるようにした。売れ行きもまずまずで在庫は100部を切っている。古い図録は昨年の館長講座全4回聴講で1冊プレゼントする企画を実施したところ、第1回目で4回分の7割くらいの申し込みがあり、インセンティブになることが分かったため、関連性の高いテーマの講演会などで在庫の多い書籍を配布し、有効に活用している。今後も価値のある「記録」「資料」として、會津八一および記念館をアピールのため、有効な資産として活用法を検討していく。 <普及>普及材としては、高級鉛筆2本の表裏に「学規」の4則を1則ずつ印字したセットを発売した。孫や子供への土産として買ってもらい、勉強するたびに「学規」を眼にしてもらおうと企画した。 <財産整理と活用>収蔵品のデータベース構築については新潟市美術館からもお誘いをいただいたが、今回は見送られた 無 未策定理由

② 経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
● 有	就任時期 年度～ 依頼先職種 { }	● 有	依頼時期 平成18年度～ 依頼先職種 { 税理事務所 }
● 無		● 無	

③ 事務処理改善の取組み	
● 有	取組内容 平成29年度～ インボイス制度導入、定額減税などの煩雑な事務処理に対応するため、外部講習に参加し、税理士事務所とも連携し、適切に処理した。
● 無	

④ 人材育成の取組み	
● 有	取組内容 平成17年度～ 市や民間の生涯学習事業(市政トーク便りなど)や小中高大学の講師を積極的に引き受けることで、知識の整理と深化につなげ、若年層への知名度アップも図っている。隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけでなく、関連人物や周辺情報についても幅広い知識を共有、習得している。それらが、會津八一の業績普及にも貢献している。また上部団体の研修会にもできる限り参加し、県外博物館の見学で「見せ方」「企画の仕方」を学び、学術誌や他館からの依頼に応え原稿を寄せている。そのほか新聞への寄稿は、簡潔に展示内容を紹介する文章作りの機会をとらえ、展示ごとに掲載をお願いしている。
● 無	

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況			
● 有	策定時期 平成12年度～ 規定名称 { 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 }	団体ホームページ掲載	● 定款等 21年度～
● 無	未整備理由 { 役員は無報酬 }		● 事業内容 21年度～
			● 役員名簿 21年度～
			● 役員報酬 年度～
			● 事業報告 21年度～
			● 正味財産増減計算書 21年度～
			● 貸借対照表 21年度～
			● 事業計画書 21年度～
			● 予算概要 21年度～

改善対応区分
 A: 改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B: 改善の取組の効果が始まっている
 C: 改善の取組に着手
 D: 改善の取組に向けて検討中
 E: 今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		後継者の育成・増員を検討しなければならない。				
改善に向けた取組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	職員の底上げは必要と考えている。在職中の学芸員は大学教授の指導を受けたり、他の施設の展示方法を随時研究し、参考にしている。				
	取り組みによる成果	それぞれが得た知識や情報をもとに展覧会企画、展示に生かしている。				
	改善・対応区分	A	● B	C	D	E
	実施事項	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	増員の検討	計画	あるべき組織を再検討	現組織体制の検証	現組織体制の検証	—
	実績	検討中	検討中	—		
	進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 本改善指示事項は、大型イベント等が多く、学芸員の業務が多忙であったことを受けて指摘されたものだが、大型イベントは当時より減っており、また、職員の育成も進んだことから、現在の陣容で概ね支障なく運営できる状況となっている。				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 現時点では特になし。				
	課題への対応	【今後の課題への対応】 喫緊の課題はないが、職員の能力向上のため、引き続き育成には力を入れていく。				

改善指示事項		引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。					
改善のために取り組んだ内容		展覧会、講演会、その他各種イベントでのアンケート結果をもとに、企画内容や展示方法を不断に検討し開催した。棟方志功生誕100年を記念した展覧会は全国各地で開催されたが、当館は會津八一との交流に絞った展示で他館との差別化を図り、評価された。					
取組みによる成果		年間入館者数は7262人となり、前年比1380人、23%増となった。特に特別展「棟方志功と會津八一」は4154人で9年ぶりに4000人を超えた。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
実施事項		令和4年度	令和5年度		令和6年度	令和7年度	
写真 コンテスト	計画	応募180点	応募190点		応募200点	応募200点	
	実績	応募184点	応募137点				
	進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和4年度までは応募点数が増加傾向を維持し、計画を上回ったが、5年度は前年比▲47点、計画比▲63点と大きく減少した。しかし浅井慎平審査委員長の評価は、対象となる歌が多様化し、イメージが広がっているとしており、応募作品の質が高くなっている。					
	今後の課題	【取組み状況を踏まえた今後の課題】 令和5年度に応募点数が大きく減少した原因は正直予測できていないが、6年度開催に向け、新聞紙上での募集告知なPRにも努めている。浅井審査委員長の高齢化と後継者の発掘が課題となっている。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 応募者の高齢化が進んでおり、新たな応募者発掘のため、高校生写真部にもアプローチする。					
その他	計画	八一祭トークイベント、館長講座	トークイベント、館長講座		トークイベント書の体験講座	八一祭高校生拓本大会書の体験講座	
	実績	いずれも実施	いずれも実施				
	進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和5年度から「八一祭」には高校生拓本大会を開催。俳優で書家の松村雄基さんと新潟大学の角田勝久教授によるトークイベントは特別展期間中に開催し、盛況だった。館長講座は3年越しの全15回をもって終了した。					
	今後の課題	【取組み状況を踏まえた今後の課題】 2人のトークショーも今年で5回目となり、一区切りつけることを検討している。人気の館長講座が終了したため、これに代わる講座を実施する。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 館長講座に代えて、「書の体験講座」を開催する。なじみのある絵手紙や年賀状、興味をそそる篆刻で集客を図る。参加者が体験を通して技能の習得を図る。高校生拓本大会は興味を示している高校に声をかけ、参加校を拡大する。					

改善に向けた取組み
評価指標

改善指示事項		中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。					
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	通常の展覧会、講演会のほか、館長連続講座、高校生拓本大会、いしぶみ散歩、出前授業などはあらゆる市民を対象に八一の顕彰活動の一環で取り組んでいる。これらは市の文化創造交流都市ビジョン基本方針1に、継続的な奈良や京都の寺社との交流は同3に合致している。					
	取り組みによる成果	館長講座は400人程度、拓本大会は市内8校から50人、出前講座は7団体570人が参加した。いしぶみ散歩は安全面に配慮して少人数に設定したが、悪天候にもかかわらず14人が参加した。なお巡見を含めた学生の来館は30校346人で、前年比17校、119人の増加となった。					
	改善・対応区分	A	B	●	C	D	E
	実施事項	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
	周年事業の実施	計画 名品50選刊行記念展の開催	開館50年、没後70年事業の検討	開館50年、没後70年事業の検討	開館50年の実施、没後70年事業の準備		
	実績	2回の企画展で紹介	調査検討中	具体的準備を開始			
	進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和7年の開館50周年に向け、事業計画を策定し、担当者を決めて調査、準備を開始した。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 目の前にある展覧会やイベントの準備、対応に追われながらも、開館50周年に向けて策定した事業計画を着実に進める。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 開館50周年を期して出版する八一の人物小伝の原稿は完成し、出版社との協議も始まった。その他講演会や記念パーティーの日程、会場、講師も決まりつつある。開催に向けた詳細な詰めを順次進めていく。令和8年度の八一没後70年企画は開館50周年事業と並行して検討していくことになる。					

改善指示事項		各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。						
改善のために取り組んだ内容		令和4年度の赤字の原因となった電気料金の高騰に対して、財団の積み立ての一部取り崩して対応せざるを得なかった。年度末に市からの補助もあったが、全額ではなく赤字となった。執務室の設定温度の弾力運用など、可能な限り取り組んだが、電気料金の大幅上昇を吸収するほどの対策は取れなかった。						
取り組みによる成果		令和5年度は前年に比べて電気料金が落ち着き、令和4年度に将来分をまとめて支出した項目もあったことに加え、その他の支出項目の経費節減に努めたことにより赤字からは脱却できた						
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E	
実施事項		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
出版	計画	書簡集「雁魚来往」第10号制作	書簡集「雁魚来往」第11号制作	—	人物小伝「會津八一」			
	実績	第10号発刊	第10号を節目に休刊	—				
	進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 出版の契機となるタイミングではなく、例年発行する特別展図録と企画展の簡易図録（コピー用紙を綴じた簡易なもの）以外の出版はなかった。						
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 令和7年の開館50周年に向けた出版物の発行。						
	課題への対応	【今後の課題への対応】 令和7年度は開館50周年にあたり、八一の生涯を易しくまとめた人物小伝と、開館から現在までの記念館の歩みをまとめた小冊子を発行する予定。						
発信活動	計画	テレビCM、新聞広告	テレビCM、新聞広告	テレビCM、新聞広告	テレビCM、新聞広告			
	実績	企画展は新聞、特別展はCMも	企画展は新聞、特別展はCMも	企画展は新聞、特別展はCMも				
	進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 例年通り、新聞広告、テレビ・ラジオCMを展開。加えて新聞記事での展覧会の内容紹介、イベント開催の告知など適宜掲載してもらった。そのほか、市の広報、LINEも利用させてもらった。						
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 ポスター、チラシ、新聞、テレビ・ラジオ、広報、LINEなどは継続して発信するが、情報が届きにくい人々への周知方法。令和6年度に実施した八一の誕生日8月1日の無料開放の周知拡大。						
	課題への対応	【今後の課題への対応】 令和6年度にお願いした市内小中学校校長会への出前授業開催案内や巡見、土日祝日、8月1日、11月3日の無料開放日の周知徹底。令和7年度には「教員のための博物館の日」へ参加し、教職員から子どもたち（父母に連れてきてもらうことも含めて）に関心を持ってもらうよう指導してもらう。						

改善に向けた取り組み
評価指標

改善指示事項		今後どのような展示を希望するか、より多くのニーズを把握するため、アンケート調査の回収率を上げる等、有効なアンケート調査となるよう工夫が必要である。				
改善に向けた取り組み	改善のために取り組んだ内容	展覧会ではアンケート回答者には絵葉書をプレゼントし、クイズ回答者には抽選で八一関連グッズを贈り、回答数増を図っている。講演会では開演前と終了後に再三協力をお願いしている。				
	取り組みによる成果	来館者数が増加したこともあり、回答率は目標を下回ったが、回答数は減っていない。				
	改善・対応区分	A	B	● C	D	E
	実施事項	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	アンケートの回収率向上	計画	回収率9%	回収率9%	回収率9%	回収率9%
		実績	8.50%	7.40%		
進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和5年度の回答率は7.4%と前年より1ポイントほど低下した。4000人以上が来館し、盛況だった棟方志功展でも7.2%であり、ほかの企画展を下回った。しかし入館者が増加しており、回答の絶対数は減少しておらず、ニーズの把握はできている。					
今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 令和5年度は若干低下したものの、これまで8~10%を維持してきた。これはかなり高い水準にあると認識している。一方で来館者が多い展覧会でも回答率は必ずしも高くなるとは限らないことがわかった。					
課題への対応	【今後の課題への対応】 アンケートの回答者には絵ハガキをプレゼントすることが周知徹底されていなかったため、窓口でもわかるような表示をする。					

改善指示事項		在庫整理を適切に進めるため、不良在庫に対する評価基準の明確化や、評価の切り下げ等、適切な会計処理を行う必要がある。						
改善のために取り組んだ内容		図録や色紙などの在庫は資料価値のある図書と認識している。館長連続講座すべて聴講する方へのインセンティブとして活用したり、講演会などのイベントでは関連性の高い書籍を配布し、関心を高めてもらうと同時に次回の参加を期待して在庫の整理を進めている。						
取り組みによる成果		令和5年度も館長連続講座の第1回目に全4回分の参加費納入者に図録を進呈するインセンティブとして勧誘したところ、年度末までの聴講料の7割ほどを早い段階で確保することができた。						
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E	
改善に向けた取り組み	評価指標	実施事項		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		販売促進	計画	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	
			実績	1,466千円(31.6%増)	1,436千円(0.02%減)			
		進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 八一の生誕140年を記念し、令和3年度末に発行した「會津八一名品50選」と「會津八一の碑 新潟編」の売れ行きが順調だった令和4年度に対し、5年度は新規の出版はしなかった。					
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 書籍にかかわらず、販売促進につながる記念館グッズを開発しなければならない。					
		課題への対応	【今後の課題への対応】 令和6年度当初に八一の「学規」4則を表裏に1則ずつ印字した2本の鉛筆を発売した。子供や孫へのお土産用に制作した。					
		既存在庫削減	計画	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	
			実績	10,729千円(7.3%減)	10,090千円(6.0%減)			
			進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 館長の連続講座すべてに参加される方へのインセンティブとして、また講演会・トークイベントなどへの参加者に理解を深めてもらうために書籍を配布した。このように、さらに興味や関心を高めてもらうために利用して整理を進めた結果、目標をわずかに超えることができた。				
			今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 在庫は財産でもあり、今後の入館者増ひいては販売促進につながるような利用法で整理を進める。				
課題への対応	【今後の課題への対応】 これまで同様、各種イベントで八一に興味関心のある方々へ配布するなど、”次につながる”利用を心がけ、在庫整理とリピーター増に努める。							

改善指示事項		中長期計画を補うものとして、事後的な評価ができるよう、客観的な成果指標を設定することが必要である。					
改善のために取り組んだ内容		この評価調書の「2.主要事業」で入館者数、入館料、講演会回数、聴講者数、販売事業、鑑定事業、学芸員の出前講座回数などの目標設定を行っている。書籍、グッズの在庫削減についてはすでに記載した通り、資料価値のあるものと認識しており、イベント等で必要に応じ既に記載の通り、館長連続講座、トークイベント等の参加者に関連書籍、グッズを配布し、より関心を高めてもらっている。					
取り組みによる成果							
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
改善に向けた取り組み	評価指標	実施事項	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		市内中学校来館校数	計画 訪問5校 来館10校	訪問5校 来館10校	訪問5校 来館10校	訪問5校 来館10校	
			実績 訪問0校 来館9校	訪問0校 来館14校			
		進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 14中学から168人が来館した。令和4年度比5校増、5人減。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 巡視の制度はほとんどの学校で実施していると思われるが、絶好の位置にありながら訪問先として選ぶ生徒が少ない。特に八一の地元である旧新潟市内は生徒数に比べて少ない。				
		課題への対応	【今後の課題への対応】 夏休み前に全市の校長会会長を訪ね、出前授業の開催を年間行事に位置づけることと来館を各校で促すよう依頼した。土日祝日に加え、11月3日と、八一の誕生日である8月1日を今年から大人も含めて入館無料としたことを伝え、新潟市の名誉市民である會津八一の名前と主な業績くらいは認識してもらえるよう利用促進をお願いした。				
		認知度向上（情報入手方法「新聞」の割合増加＝アンケート回答）	計画	30%	30%	30%	30%
			実績	25%	19%		
		進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 目標を10ポイント以上下回った。一方で無回答が25%と昨年より6ポイント上昇している。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新潟日報社の「おとなプラス」が休刊となり、広告掲載回数が大幅に減った。新聞の媒体力が相対的に低下しており、新聞にこだわらず、市民に情報が到達する媒体選択が重要。				
課題への対応	【今後の課題への対応】 媒体選択が重要だが、電子メディアを利用するにしても費用の問題があったり、少ない人数で情報提供の更新頻度を高く維持することは難しい。既存のメディアを効率的に利用することになる。						

改善指示事項		特別展や企画展といった展示事業は、関係各所に引き続き協力を仰いでいく必要がある。				
改善のために取り組んだ内容		館長や学芸員のネットワークを通じて、記念館にはない作品の借用や県内外で開催する写真コンテスト巡回展に協力してもらっている。				
取り組みによる成果		特別展、企画展とも想定した作品を借用できている。また図録広告への協賛社が微増した。				
改善・対応区分		A	B	● C	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	計画	法隆寺管長講演会	新規協力企業獲得	新規協力企業獲得	教育機関との連携	
	実績	満席	図録広告2社増加			
	進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 記載の通り、令和4年度の法隆寺管長の講演会は満席となったが、講演内容が物足りず、不満の声もあった。年に1度、特別展で発行する図録の広告掲載社を少しずつ増やしている（5年度は2社増、1社減）。6年度は1社増。				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 講演会の講師とは事前に講演内容について、こちらの期待に沿う内容になるよう協議する。普及活動では子どもたちとその親世代へ訴求したい。				
課題への対応	【今後の課題への対応】 講演会講師を依頼する際に、先方に失礼のない範囲で、しっかり講演内容を学芸員から相談するようにしている。既に記載したが、市内の小中学校の校長会に対して、出前授業や巡見、土日祝日は無料で観覧できること、8月1日と11月3日は父兄も無料となることなどを校長会長を通じて伝えてもらった。					

改善対応区分 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む) B:改善の取組の効果が始まっている C:改善の取組に着手 D:改善の取組に向けて検討中 E:今は実施せず今後の課題とする
--

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

今後改善を要する事項		展示室が1室である。(廊下にも展示できるが) 1室というのは内容は別として「ここだけ?」の感を抱かれる。なんとかボリュームを出したい。			
改善のために取り組んだ内容		展示室を増やしたり、拡張することは財団では不可能。これまででもできるだけ展示スペースを確保するべく、壁面のほかにも中央部に展示ケースを配置したり、廊下を利用して展示数を増やす努力をしており、これ以上の拡張はできない。			
取り組みによる成果		令和5年度のアンケート結果で「展示量が少ない」と回答した人は12%で前年度と同数、「適当」は85%と4年度より1ポイント減とほぼ同じだった。限られた展示スペースに多くの作品を詰め込むことは逆に見にくくなり、作品を小型化することで迫力を欠くことになる。			
改善・対応区分		B ● C		D E	
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	計画	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示
	実績	達成	達成		
	進捗状況	【令和5年度までの達成状況及び今後の見込み】 アンケート結果によれば、展示内容が「とても良い」と「良い」を合わせて90%以上を毎年維持している。毎年秋には次年度の展示会のテーマを設定しており、担当学芸員が展示作品の選定、展示法など、過去のアンケートで寄せられた意見も反映して開催に備えている。			
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 上述の通り、9割以上の方々が展示内容を評価していただき、年間入館者数もコロナ禍前の水準に戻った。			
	課題への対応	【今後の課題への対応】 限られたスペースを有効に活用するとともに質的な充実をさらに進め、不足と思われぬような工夫が必要。			

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	令和4年度は電気料金の高騰で市からも補正予算をいただいた一方で不足分を財団の積み立てを取り崩して対応した。5年度は電気料金も落ち着き、黒字へと転換できた。公益目的事業の赤字を収益目的事業で埋める理想的な体質を実現できるよう努力する。
団体の自立性	市からの指定管理料のほかに地元新聞社、放送局などから寄付をいただいている。さらにイベントごとに商品提供なども受けている。展覧会、講演会などについては財団職員独自で企画立案、開催している。
経営の効率性・適正性	週1度の休館日と年末年始7日間以外は展示替えの期間も含め年間300日程度、職員のだけかが出勤している。これを事務長、受付・総務担当、学芸員2人の常勤4人（館長は非常勤）で運営している。講演会や写真コンテスト、トークイベントなどもこのメンバーで開催している。職員は交代で有給休暇を取得しながらうまく休みを取っている。受付業務などアルバイトも活用しながら、非常に効率的に運営しているが、余裕はほぼないと認識している。
その他	

【新たに改善を要する事項】 ※「6. 経営改善状況」に記載のもの以外で改善を要する事項を記載

今後改善を要する事項		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
評価 指標	実施事項				
	計画				
	実績				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】			
	課題への対応	【今後の課題への対応】			

【団体による総括的な評価】

<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は棟方志功関連の特別展が来館者4000人を超える盛況だったことに加え、そのほか3回の企画展も各1000人くらいの来館があり、年間では7000人を超えた。コロナ前の水準への回復を令和8年度と見込んだ中期計画より3年前倒しで達成することができた。 令和4年度のような電気料金の高騰がなく赤字から黒字に転換できた。 初めて八一祭のイベントで開催した「高校生拓本大会」は高校生に八一作品をじっくり見てもらう機会となり、たいへん評判だった。また久しぶりに開催した、八一の歌碑をめぐる「いしぶみ散歩」は少人数だが好評で、こうした八一を身近に感じることのできる地に足の着いた地道な活動は大切にしていきたい。

【所管課による評価】

<p>展示事業において、入館者数は昨年度を上回り目標を達成している。また、若い世代に八一を伝えるため、市内中学校に対して機会を捉えアピールしたり、高校生に対する新たな取り組みを行うなど、精力に活動している点も評価できる。今後も物価高騰が見込まれるなかで、さらなる経費の節減に努めてほしい。</p>
--